

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成22年2月18日(2010.2.18)

【公開番号】特開2007-17485(P2007-17485A)

【公開日】平成19年1月25日(2007.1.25)

【年通号数】公開・登録公報2007-003

【出願番号】特願2005-195879(P2005-195879)

【国際特許分類】

G 02 F 1/13363 (2006.01)

G 02 F 1/13 (2006.01)

G 02 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

G 02 F 1/13363

G 02 F 1/13 5 0 5

G 02 F 1/1335 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月5日(2010.1.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

偏光子として作用する入射側偏光子と検光子として作用する出射側偏光子との間に、一対の透明基板により液晶層を保持した液晶セルが設けられた液晶表示装置において、

可視光を回折させ得るピッチの周期的微細構造に形成されたブラックマトリクスと、

前記液晶層と前記ブラックマトリクスとの間に配置され、前記液晶層の位相差を補償する位相差補償手段と、

前記入射側偏光子と前記液晶セルの間、及び前記出射側偏光子と前記液晶セルとの間の少なくとも一方に配置され、各偏光子を通過する光線の偏光面の方位を補償する偏光方位角補償手段と、

を備えることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項2】

前記偏光方位角補償手段は、二軸性位相差層であることを特徴とする請求項1記載の液晶表示装置。

【請求項3】

前記偏光方位角補償手段は、CプレートとAプレートの積層体からなることを特徴とする請求項1記載の液晶表示装置。

【請求項4】

偏光子として作用する入射側偏光子と検光子として作用する出射側偏光子との間に、一対の透明基板により液晶層を保持した液晶セルが設けられた液晶表示装置を備えた液晶プロジェクタにおいて、

可視光を回折させ得るピッチの周期的微細構造に形成されたブラックマトリクスと、

前記液晶層と前記ブラックマトリクスとの間に配置され、前記液晶層の位相差を補償する位相差補償手段と、

前記入射側偏光子と前記液晶セルの間、及び前記出射側偏光子と前記液晶セルとの間の少なくとも一方に配置され、各偏光子を通過する光線の偏光面の方位を補償する偏光方位

角補償手段と、  
を備えることを特徴とする液晶プロジェクタ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

上記目的を達成するために、本発明は、偏光子として作用する入射側偏光子と検光子として作用する出射側偏光子との間に、一対の透明基板により液晶層を保持した液晶セルが設けられた液晶表示装置において、可視光を回折させ得るピッチの周期的微細構造に形成されたブラックマトリクスと、前記液晶層と前記ブラックマトリクスとの間に配置され、前記液晶層の位相差を補償する位相差補償手段と、前記入射側偏光子と前記液晶セルの間、及び前記出射側偏光子と前記液晶セルとの間の少なくとも一方に配置され、各偏光子を通過する光線の偏光面の方位を補償する偏光方位角補償手段と、を備えたことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明の液晶プロジェクタは、偏光子として作用する入射側偏光子と検光子として作用する出射側偏光子との間に、一対の透明基板により液晶層を保持した液晶セルが設けられた液晶表示装置を備えた液晶プロジェクタにおいて、可視光を回折させ得るピッチの周期的微細構造に形成されたブラックマトリクスと、前記液晶層と前記ブラックマトリクスとの間に配置され、前記液晶層の位相差を補償する位相差補償手段と、前記入射側偏光子と前記液晶セルの間、及び前記出射側偏光子と前記液晶セルとの間の少なくとも一方に配置され、各偏光子を通過する光線の偏光面の方位を補償する偏光方位角補償手段と、を備えたことを特徴とする。